

白十字の会読書会

キリスト教社会主義×ヘーゲル左派の諸文献を再検討!!

基督教友愛新聞

発行所：
白十字キリスト教
社会主義研究会
(<http://www.ichtus.net/css>)
発行人：
倉井 香茅哉 (独立系研究者)



写真：昨年11月の立ち上げ式にて

白十字キリスト教社会主義研究会(略称：白十字の会)は、二〇一五年一月一日、万聖節(諸聖人の日)に設立された。それから約一年の準備期間を経て、今回、月一回の定例読書会が開始されることになった。以下、その概要を紹介したい。歴史的な文脈からみたキリスト教社会主義は、一九世紀における資本主義の広がりに対して、その矛盾を解消し、産業革命以後の労働者の権利を守るための運動としてはじまった。代表的指導者として、英国のラドローとモーリス、チャールズ・キングズリーがいる。日本においては、安部磯

いま、キリスト教社会主義を読みなおすことの意義は、政治・経済・文化をめぐる固定化された見方を相対化し、動

『新紀元』同人、賀川豊彦の思想を21世紀の社会に活かすための試み

雄、片山潜、石川三四郎、木下尚江らの刊行した月刊紙『新紀元』をはじめ、賀川豊彦などの作家がキリスト教社会主義の立場を表明していた。さらに、近代日本を代表する独立伝道者の一人である内村鑑三もまた、当初はキリスト教社会主義に一定の理解をみせていた。『新紀元』第

一号に寄稿された内村の文章には、「社会主義が暴徒の巢窟と成り了らんかを恐れたり」という一文がみられる。そこからは、キリスト教社会主義への理解とともに、唯物論的な社会主義に対する痛烈な批判を読み取ることができる。いわゆるマルクス派社会主義とは一線を画していたキリスト教社会主義に関する言説は、近代社会、とくに明治以降の日本の歩みを省察するにあたっての思想的な〈断面〉を示している。

秩父地方を視察(第1回)

畠山重忠・秩父困民党(農民軍)ゆかりの地、歴史・文化的多様性を内包する風土に真正キリスト教社会の建設を想う。

一月六日(日)に秩父へ行った。皆野駅近くの小さなコンサートホールへ向かう用事があったのだ。午前中に今井館聖書講堂を出発し、東急東横線の都立大学駅から、渋谷を過ぎ、池袋を通り越して、直通の東武東上線で乗換の寄居駅を目指した。目的地に近づいた。秩父の風景がかわっていく。幸の素朴な味、郷土の皆さんが笑顔で迎えてくれる。秩父カード(Guica、PASMO)が使えない。戸惑いながら、紙の切符を購入し、改札を抜けた。子ども

的かつ複層的な視座、実践・行動に資する社会主義の理論を提示するところにある。さしあたっての目標として、上述のようなキリスト教社会主義の歴史の復習を通じて、近代以降の政治・経済理論の批判的考察を行うことにしたい。

なお、本会にはもう一つの軸がある。来月2月に開始予定の読書会は、今年7月、都内某所で開催されたマルクス読書会の企画を継承するもので

視点を導入することによって、キリスト教社会主義を文学史・哲学史のなかに位置づけるだけでなく、現代的な問題編成のなかの「生きた思考/実践」とすることも可能となるはずである。以上が、白十字の会の主催する読書会にむけての概要である。とはいえ、ここに記した内容は、厳格な信仰箇条でもなく、政治的な綱領でもない。読書会の開催にあたっては、一人の講師が主導するものではなく、一人一人がテキストを読み、民主的に議論しあうスタイルを想定している(ただし、本会の根

学問と芸術の運動体

イクトウスプロジェクト

次世代表現者たちの小魚群をめざして
<http://www.ichtus.net/>

天帳院日記

「君は文学研究者か。それなら、賀川豊彦を読んではどうか？」
——二〇一五年一月、ある社会運動の会合で、

生活クラブ生協連合会会長の加藤好一さんに助言をいただいた。

なぜ、いま賀川豊彦なのか。なぜ、いまキリスト教社会主義なのか。これまでとは別の研究会と機関誌をつくらうと思いついた背景としては、自分自身、政治・経済に対する知識の乏しさを痛感したことも大きい。率直に学びたくなった。加えて、今年五月、古戸圭一郎(ふると)氏の主催する『余白のR』の大学特集に寄稿したことが、自己省察の好機となった。数年間、「学問と芸術」のあいだで足掻いていたが、先日、篠崎キリスト教会の川口通治牧師からも「地に足をつきなさい」と諫められた。真摯に耳を傾けたい。これからは、「教育と福祉」のために、小さく、ゆっくりと進んでいく。着実に進むべし。

告知

2017 年 02 月！！

キリスト教社会主義×ヘーゲル左派 定期読書会を開始！！

【参考図書】

イマヌエル・カントの信仰的著作
ヘーゲル『キリスト教の精神とその運命』
ダーフィット・シュトラウス『イエスの生涯』
フォイエルバッハ『キリスト教の本質』
マルクス『資本論』
カール・バルト、パウル・ティリッヒの各著作
19 世紀英国における産業革命とキリスト教社会主義
『新紀元』同人、賀川豊彦らのキリスト教社会主義
内村鑑三、無教会の伝道者たち
その他
（順不同）

毎月 1 回、土曜日、
首都圏で開催予定。

詳細は、次号告知を待て！！

※本読書会は、学術的関心に基づく有志の集まりです。主催団体名に「キリスト教
社会主義」と銘打っておりますが、「信仰の有無・教派の別」等は一切問いません。

主催：白十字キリスト教社会主義研究会